

2018（平成30）年度

# 学習計画 (シラバス)

第1学年普通科



# 科目一覧（単位数）

- 国語総合（4単位）
- 世界史 A（2単位）
- 日本史 A（2単位）
- 数学 I A（5単位）
- 科学と人間生活（2単位）
- 体育（3単位）
- 保健（1単位）
- 音楽 I（2単位）
- コミュニケーション英語 I（3単位）
- 英語表現 I（2単位）
- 情報の科学（2単位）

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	国語総合	単位数 4 単位	学年・学科 1 年 普通科
教科書	『高等学校 改訂版 国語総合』 (第一学習社)	副教材	新版 パーフェクト常用漢字(第一学習社) プレミアムカラー国語便覧(教研出版) 読解を大切にする体系古典文法(教研出版)
教科目標	国語を適切に使用して表現し、的確に理解する能力を育成する。伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を中心に読解を行います。読解のまとめとして確認問題に取り組みます。</li> <li>・教科書本文の読解以外に、発表、作文等の活動を行い、表現力を高めます。</li> <li>・週一回漢字の小テストを行い、語彙力を高めます。</li> </ul>		
授業の留意点	<p>国語総合は、現代文・古典の分野を学習します。      現代文では「随想」「小説」「評論」「詩・短歌・俳句」を学習します。単元ごとの課題と、その課題を達成する方法を意識して、読解力を身につけましょう。      古典では「古文」「漢文」を学習します。音読、語彙、文法の基礎知識を大切にし、古典の文章を読み味わう力を身につけましょう。</p>		
学習方法 (アドバイス)	<p>授業にしっかり取り組みましょう。板書された内容をノートに写すだけでなく、気づいたことは主体的にメモをとるようにしましょう。      分からない言葉があったときはすぐに辞書で調べ、漢字は正しい形で書けるようになるまで何度も練習し、1年生のうちから語彙量を増やすよう心がけて下さい。      漢字小テストや古典文法定着のための家庭学習も行ってください。</p>		
課題・補習	必要に応じて行います。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行う場合があります。		
試験について	定期試験(年4回)の他に、必要に応じて確認テスト等を実施します。		
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法	
	①関心・意欲・態度	授業への取り組み 課題・提出物の状況 ノート、プリントの内容 定期試験	
	②話す・聞く能力	授業への取り組み 音読、暗唱への取り組み グループワーク・発表への取り組み	
	③書く能力	授業への取り組み 課題(作文・レポート)・提出物の状況・書く時間への取り組み ノート、プリントの内容 定期試験	
	④読む能力	授業への取り組み 読む時間の課題の提出状況 定期試験	
	⑤知識・理解	漢字小テスト・古典文法小テスト 漢字コンクール 定期試験	
備考			

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	世界史A		単位数 2 単位	学年・学科 1 年 普通科
教科書	「要説世界史」(山川出版社)		副教材	「最新世界史図説タペストリー」(帝国書院) 「山川一問一答世界史」(山川出版社)
教科目標	世界の歴史を、わが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会を主体的に生きるために日本人としての自覚と資質を養う。			
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的事項を理解した上で、事象に対して何故そうなったのかという考察を深められるようにする。</li> <li>・資料集を活用し、複数の資料に触れるこにより資料の収集力や活用能力を身につけます。</li> <li>・適宜小テストを行い、知識の確実な定着を図ります。</li> </ul>			
授業の留意点	歴史的事象の単純な暗記ではなく、歴史の大まかな流れをつかむことを意識する。時代の変革期の前後関係を詳しく知り、世界の国々がどのような過程を経て成立し、今日にどのような影響を与えていたのかを理解します。そして、私たち日本人がどのように対応すべきかを考え、国際社会を生きる力をつけていきたいと考えます。			
学習方法 (アドバイス)	世界史の流れをつかむためには地理的知識も必要です。資料集付録の地図を活用し、各國の関係を視覚的につかんでください。また、小単元ごとに「一問一答」を復習し、基本的事項の確実な定着を図ってください。			
課題・補習	必要に応じて実施します。			
試験について	年間4回の試験を実施します。			
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法		
	①関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会を主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。 (授業態度、発言・発表内容、提出物)		
	②思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 (授業態度、発言・発表内容、提出物、試験)		
	③技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し得て、読みとったり図表にまとめておりしている。 (課題取り組み、提出物、試験)		
	④知識・理解	世界の歴史についての基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。 (小テスト、試験)		
備考				

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	日本史A	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 普通科			
教科書	改訂版日本史A(山川出版社)	副教材	「図説日本史通覧」(帝国書院) 「山川一問一答世界史」(山川出版社)					
教科目標	1 近代を中心に江戸時代から現代にいたる我が国の歴史を史料をもとに理解する。 2 人類の課題を多角的に考察することによって歴史的思考力を養う。 3 国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 4 日本の歴史を地理的空間の広がりの中でとらえること。							
授業内容 進め方	1 教科書を中心に江戸時代から現代までの日本の基本的な歴史的事項を一齊講義で学びます。 2 授業中にできるだけ多くの史料を用いて学習します。							
授業の留意点	1 日本の歴史について、「なぜそうなったのだろう?」という疑問を大切にしながら学びましょう。 2 様々な立場を考え理解し、歴史的過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 3 史料を調べて客観的な事実を探求する力や、年表や図表などにまとめる表現力を身につけましょう。 4 基本的な「知識・理解」は、自分の言葉でその背景などを説明できるようにし、確実に身につけましょう。							
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書を読むなど予習を行うと、授業での理解や達成度が高まります。</li> <li>・新聞やニュースを見聞きすることで、歴史に関する興味や関心が高まりますので、積極的に現在起こっている諸問題に关心を持ちましょう。</li> </ul>							
課題・補習	必要に応じて実施します。							
試験について	年間4回の試験を実施します。							
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法						
	①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史に関心を高めているか。</li> <li>・意欲的に課題を追求する態度や客観的に考察しようとする態度を身につけているか。</li> <li>・国際社会に生きる日本人として歴史を主体的に考える態度を身につけているか。</li> </ul>						
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史を通して現代日本の課題を見いだしているか。また、現代世界や人類の課題について多面的に考えることができるか。</li> </ul>						
	③技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を収集し、その情報を主体的に選択、活用しているか。</li> <li>・学習の中で、探し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。</li> </ul>						
	④知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。</li> </ul>						
備考								

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学Ⅰ・A	単位数	5 単位	学年・学科	1 年 普通科				
教科書	「数学Ⅰ Standard」(東京書籍) 「数学A Standard」(東京書籍)	副教材		「Standard Buddy STAGE 数学Ⅰ+A」(東京書籍) 「Standard Buddy STAGE 数学Ⅰ+A 解答編」(東京書籍)					
教科目標	数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
授業内容 進め方	教科書の内容を基本とし、基礎的知識・技能の定着をはかる。その定着の度合いに応じて、副教材を用いた問題演習を積極的に行い、応用力を身につける。平行履修とはせず、数学Ⅰと数学Aの内容を考慮しながら、別表にあるように履修する。								
授業の留意点	授業は、教科書の内容を十分に理解することを目標として展開する。「定義」「公式」を確実に理解・修得することが最も重要となるので、授業では疑問点が残らぬよう積極的に質問し、理解が不十分であると感じた場合は繰り返し演習を行って欲しい。								
学習方法 (アドバイス)	「授業中に解けること」と、「解法を理解し、知識・技能が定着した」とは、別のことであるという理解を持つ必要がある。一度解けた問題であっても、時間をおいて繰り返し取り組み自分の理解度を把握して、定着に必要な演習(復習)を行って欲しい。その際には、「読んで解法が理解できる解答」を書くことを心がけ、計算過程や説明は省略しないこと。また、間違った解答は消さずに、復習の材料として活用すること。								
課題・補習	教科書のTraining、Level Up、副教材の問題のうち授業で扱わなかったものを課題とする場合がある。但し、提出を課さない場合でも、各自が学習することが望ましい。平常講習、長期休業中の講習では、授業の発展的な内容を扱う。								
試験について	4回の定期試験以外に6回の単元テストを行い、合計10回の試験を同等に扱い評価の対象とする。								
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法							
	①関心・意欲・態度	各章における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしているか。 ・試験、単元テスト、朝学習、課題、提出物、授業への取り組み等							
	②数学的な見方考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験、単元テスト、朝学習、課題、提出物、授業への取り組み等							
	③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 ・試験、単元テスト、朝学習、課題、提出物、授業への取り組み等							
	④知識・理解	各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験、単元テスト、朝学習、課題、提出物、授業への取り組み等							
備考	前期中間試験以降、習熟度別授業を実施する。クラス編成は定期試験ごとに行い、前のクラス編成以降に実施した単元テストと定期試験の成績により3段階に編成する。最初のクラス編成は、入学から前期中間試験までの成績をもとに行う。								

**平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス**

教科名	科学と人間生活	単位数	2 単位	学年・学科	1 年 普通科			
教科書	新 科学と人間生活(数研出版)	副教材	新科学と人間生活整理ノート (数研出版)					
教科目標	普段の生活において、身の回りの事物・現象に関して観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。							
授業内容 進め方	科学と人間生活の授業に関しては講義形式によりシラバス通りの配列で進みます。各編それぞれ2章あるうちの一方を学んでいきます。 物理:第1章 化学:第1章 生物:第2章 地学:第1章							
授業の留意点	中学での既習事項、物理・化学・生物・地学の各科目との関連事項を意識して学習する。 科学的な見方や考え方には興味をもち、科学的な考え方方がこれから生きていく上での道標の一つとなるように学習する。							
学習方法 (アドバイス)	学習内容が私たちの生活する街で見られる身近な現象であることを認識し、私生活の中で様々なことに興味をもち、科学的に考える癖をつけるようにしてください。							
課題・補習	進行度に応じて行います。							
試験について	定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行います。							
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法						
	①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち意欲的に探求しようとする姿勢がある。 ・学習活動への参加状況 ・ノート、課題などの内容と提出状況						
	②思考・判断・表現	日常生活において事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容・発言の内容						
	③技能	観察、実験において家庭や結果を的確に記録、整理する。 ・実験、観察の授業中の実験器具操作や方法 ・レポート、定期試験の解答の内容 ・発言の内容						
	④知識・理解	基本的な概念や原理法則を理解し、知識を身につけている。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容						
備考								

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育		単位数 3 単位	学年・学科 1 年 普通科
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店		副教材	指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ、柔道着(男子)
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。			
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。			
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること			
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に关心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。			
課題・補習	状況に応じて実施。			
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。			
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法		
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等		
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する		
	③技能	種目毎の実技試験による評価		
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等		
備考				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	音楽Ⅰ	単位数 2 単位	学年・学科 1 年 普通科										
教科書	音楽Ⅰ Tutti (教育出版)	副教材											
教科目標	① 音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、音楽を愛好する心情を養うことができる。 ② 曲想を把握し、工夫して演奏することができる。 ③ 様々な鑑賞を通して、楽曲の国や地域の特徴や歴史的背景を理解することができる。 ④ 音楽の組み立て方を理解し、創作することができる。												
授業内容 進め方	音楽科では、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「楽典・音楽史」の4つについて学習します。 「歌唱」では齊唱から合唱までを行います。日本語だけでなく、外国語の歌にも挑戦します。 「器楽」は全員アルトリコーダーの演奏をします。ソロからアンサンブルまでを行い、その際にはソプラノ、テナー、バスリコーダーに分かれて行います。 「鑑賞」ではCDやDVD・ブルーレイディスクを使用し、音楽の種類や形式、音楽史(作曲家の国や地域・歴史的背景)等、楽曲について学習します。 「楽典・音楽史」は、中学までの基礎・基本の復習と、歌唱や器楽の表現活動に必要な知識を習得します。												
授業の留意点	<b>実技教科である音楽では、何よりも普段の授業での取り組みが重視されます。</b> 授業で扱う楽曲に意欲的・積極的に取り組みましょう。授業に関係のない私語は、興味・関心が無いことの現われ、授業に参加していないと判断されます。授業の中で配られた楽譜やプリントには、必ず氏名・日付等を記入しましょう。(ファイル・チェックが有ります。)												
学習方法 (アドバイス)	実技試験を多く実施しますが、授業中の練習で十分達成できる課題を設定しています。 授業の時間を十分活用しましょう。このほかに定期考査を実施しますので、授業で配られるプリントや教科書を用いて復習をしっかりと行ってください。												
課題・補習	課題等が出されることは多くはありませんが、歌唱・器楽での実技試験で合格ラインに到達できなければ補習を行います。補習に成らない様に、自主的な練習をしておいて下さい。 また、欠席やケガ等の理由で試験を受けられない場合は、後日追試を行います。												
試験について	定期試験(前期期末、学年末)の他に、実技試験を行います。												
評価の観点・方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 関心・意欲・態度</td> <td>授業の題材に関心を持ち、意欲的・積極的に授業に参加しているか。 (授業態度、プリントへの記入)</td> </tr> <tr> <td>② 感受や表現の工夫</td> <td>自分なりの感じ方を持ち、表現の工夫することができるか。 (授業態度、実技テスト)</td> </tr> <tr> <td>③ 表現の技能</td> <td>演奏の能力や表現に必要な基本的知識が身についているか。 (実技テスト、定期考査)</td> </tr> <tr> <td>④ 知識と鑑賞の能力</td> <td>音楽を理解し、その良さや美しさ・奥深さを味わっているか。 (授業態度、プリントへの記入(ファイル・チェック))</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点	評価方法	① 関心・意欲・態度	授業の題材に関心を持ち、意欲的・積極的に授業に参加しているか。 (授業態度、プリントへの記入)	② 感受や表現の工夫	自分なりの感じ方を持ち、表現の工夫することができるか。 (授業態度、実技テスト)	③ 表現の技能	演奏の能力や表現に必要な基本的知識が身についているか。 (実技テスト、定期考査)	④ 知識と鑑賞の能力	音楽を理解し、その良さや美しさ・奥深さを味わっているか。 (授業態度、プリントへの記入(ファイル・チェック))		
評価の観点	評価方法												
① 関心・意欲・態度	授業の題材に関心を持ち、意欲的・積極的に授業に参加しているか。 (授業態度、プリントへの記入)												
② 感受や表現の工夫	自分なりの感じ方を持ち、表現の工夫することができるか。 (授業態度、実技テスト)												
③ 表現の技能	演奏の能力や表現に必要な基本的知識が身についているか。 (実技テスト、定期考査)												
④ 知識と鑑賞の能力	音楽を理解し、その良さや美しさ・奥深さを味わっているか。 (授業態度、プリントへの記入(ファイル・チェック))												
備考	音楽Ⅰの授業を通じて、私達の身の周りにあふれる様々な音楽の中にある素晴らしいものに気付き、生涯音楽を愛好する姿勢を養ってほしいと願っています。												

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コミュニケーション英語 I	単位数 3 単位	学年・学科 1 年 普通科
教科書	『LANDMARK Fit English Communication I』	副教材	『transfer英語総合問題演習コースA』 『英単語ターゲット 1200』
教科目標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 CAN-DO-LISTに基づく具体的な言語活動は次の通り。 (1) 身近なことについて簡単なやりとりや、自分のことについて話すことができる。 (2) 自分のことについて簡単な文章を書くことができる。 (3) ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる (4) 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。		
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書やプリントを使いながら母国語を介さずに文章の内容把握をする</li> <li>・文章の要約等をとおして情報の概要や要点をとらえる、またそれを伝える</li> <li>・情報や文章から考えたこと、感じたことについて意見を交換する</li> <li>・自分自身のことについて表現する</li> </ul> 以上の項目をとおして4技能を総合的に育成する		
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動に積極的に参加して学習すること。</li> <li>・音声的な特徴(アクセント・intonation)や日本語との違いに注意しながら発音すること。</li> <li>・まとまりのある文章を音読・暗唱することとおして英語の文章の流れに慣れること。</li> <li>・できるだけ多くの文章に触れること。</li> <li>・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。</li> </ul>		
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の言語活動に積極的に参加すること。</li> <li>・自分の意見を持つこと。</li> <li>・学習ノートや教科書・プリントの復習に努めること。</li> <li>・音読練習すること。</li> </ul>		
課題・補習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習用単語練習、学習ノート(既習事項確認用)、総合問題演習(プリント)を課題として適宜提出する。</li> <li>・長期休業課題、週末課題(UNIT 1 他)を課す。</li> </ul>		
試験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験を年4回実施する。※試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する</li> </ul>		
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法	
	① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。</li> <li>・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>・自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)</li> </ul>	
	② 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考え方など伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)</li> </ul>	
	③ 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝たいことを理解しているか。 (定期試験、ワークシート、リスニングテスト)</li> </ul>	
	④ 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 (定期試験、小テスト、英単語コンクール)</li> </ul>	
備考	パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。		

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	英語表現 I		単位数 2 単位	学年・学科 1 年	普通科		
教科書	NEW FAVORITE English Expression I (東京書籍)		副教材	NEW FAVORITE WORKBOOK (東京書籍)			
教科目標	<p>英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。4技能のうち、特にWriting、Speaking の能力の養成に力を入れる。CAN-DO-LISTに基づく具体的言語活動は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 身近なことについて簡単なやりとりや、自分のことについて話すことができる。</li> <li>(2) 自分のことについて簡単な文章を書くことができる。</li> <li>(3) ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる</li> <li>(4) 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。</li> </ul>						
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項や表現方法などを「使用する」ことで習得していくことをめざす。</li> <li>・相手に「伝える」ことを目的に、わかりやすさ、簡潔さを追究しながら学習をすすめる</li> <li>・問題演習等を繰り返し既習事項の定着を図る。</li> </ul>						
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の言語活動に積極的に取り組む。</li> <li>・準備をして発表する場面、即興で表現する場面の両方の能力の育成に取り組む。</li> <li>・学習した内容を実際に何度も「使用する」ことで定着させる</li> <li>・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。</li> </ul>						
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の言語活動に積極的に参加すること。</li> <li>・自分の意見を持つこと。</li> <li>・Workbookや教科書・プリントの復習に努めること。</li> <li>・学んだ表現や方法を実際に使うことに挑戦すること。</li> </ul>						
課題・補習	<p>Workbook(既習事項確認用)、演習問題集などを課題として適宜提出する。 長期休業課題、週末課題を課す。</p>						
試験について	<p>定期試験を年4回実施する。※試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する。</p>						
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法					
	① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。</li> <li>・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>・学んだことを実際に使用して、自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)</li> </ul>					
	② 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。</li> <li>・表現や発表の工夫をして相手にわかりやすい伝え方をしているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)</li> </ul>					
	③ 外国語理解の能力	<p>日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝えたいことを理解しているか。</p> <p>(定期試験、ワークシート、小テスト)</p>					
	④ 言語や文化についての知識・理解	<p>日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。</p> <p>(定期試験、小テスト)</p>					
備考	パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。						

## 平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	情報の科学		単位数 2 単位	学年・学科 1 年 普通科
教科書	情報の科学 (日本文教出版)		副教材	情報 最新トピック集 2017 (日本文教出版)
教科目標	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を科学的な見方・考え方で理解し習得する。また、問題解決やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が現代社会に及ぼす影響を理解し、情報社会に参画する上での望ましい態度を身につける。			
授業内容 進め方	情報機器や情報通信ネットワークの仕組みや特性などの科学的な理解を通じて情報社会に参画する態度について学びます。また、情報の表現方法やコミュニケーションについての学習、問題解決学習、情報社会の理解を通して、情報活用の実践力を身につけていきます。1年間を通して、学習した知識や技能を活用し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身につけましょう。			
授業の留意点	<p>○年間を通した学習指導内容は、学習した内容を基本に次の授業内容を展開できるよう、各章、各項目の連動性に留意されています。復習を欠かさないようにしましょう。</p> <p>○情報が現代社会に与える影響について学習し、情報モラルを身につけてください。日頃から、情報社会の一員であることを意識し、様々なニュースに目を向けましょう。</p>			
学習方法 (アドバイス)	授業では、ノートの他、ワープロソフトやPowerPointを用いて内容をまとめます。内容をまとめる際に、黒板やスクリーンにまとめられたものの他に、先生方の話や教科書・資料集から大事だと思ったことを自分で工夫してまとめるとより理解が深まります。情報を整理して活用することに努めて下さい。			
課題・補習	各授業では、重要事項の確認および実習の結果や作成課題の記入、提出を義務づけます。不十分な取り組みや試験結果が基準点に達しない場合、課題の再提出および放課後補習を行います。			
試験について	試験は前期期末と後期中間、学年末の3回行います。試験の内容としては、単純な知識を問う問題に偏らないよう、生徒の考察を呼び起こし、様々な状況に応じた正しい判断・考察を評価できるよう作間に留意します。			
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法		
	①関心・意欲・態度	情報に関わる技術や情報通信ネットワークの特性に関心をもち、問題解決やコミュニケーションにおいてコンピュータ等を進んで活用しようとするとともに、情報社会に主体的に対応しようとするとする。		
	②思考・判断・表現	問題解決やコミュニケーションの目的に応じて方法を工夫したり、結果をふまえて改善するとともに、情報の収集・発信にともなう問題などをふまえた適切な判断をする。		
	③技能	情報機器や情報通信ネットワークの特性を生かして、問題解決やコミュニケーションにおいてコンピュータ等を効果的に活用する。		
	④知識・理解	問題解決やコミュニケーションにおいてコンピュータ等を効果的に活用するための科学的な知識を身につけるとともに、情報化が現代社会に及ぼす影響を理解する。		
備考	評価に関しては、各学期末の試験に加え、各実習における課題の提出および理解度の確認を行い、総合的な評価を行います。			